

山岳科学総合研究所 友の会公報

2012年1月 第2号



大正池右岸から穂高を望む（2012年1月17日）

もくじ

年頭のごあいさつ	友の会会長	山口 孝	2
心に届いたメッセージ （友の会「第1回憧憬の森講演会」横山勝丘氏講演の概要）			2
講演会を聴講して			
みずみずしく語られた山への思い		市之宮和彦	3
会員リレーコラム			4
・栗澤 徹 「この冬の気象状況」			
・榎 拓登			
友の会臨時総会報告			5
お知らせ			5
編集後記			6

年頭のごあいさつ

会員の皆様 新年明けましておめでとうございます。

2012年の新春を迎え、謹んで皆様のご多幸とご健康をご祈念申し上げます。

昨年は、東日本の大震災、それに伴う原発事故、また豪雨災害などいまだかつて体験したことのない多難な年でした。

今年こそは平穏無事で希望あふれる明るい年になるよう願わずにはられません。

友の会は山岳科学総合研究所を支え、会員相互の親睦と研究所と市民を結ぶ役割を目的に設立されました。

会員の皆様からの前向きなご意見と積極的なご協力をいただき、友の会の発展を目指してまいりたいと考えております。

事業の内容は定期的に会報等によりお知らせさせていただきますので、大勢の会員の皆様のご参加を待ち望んでおります。

本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

友の会会長 山口 孝

心に届いたメッセージ

(友の会「第1回憧憬の森講演会」横山勝丘氏講演の概要)

友の会が主催した信州大学山岳部OB横山勝丘氏の講演会が、2011年も押し迫った12月22日16時から、信州大学理学部大会議室で会員など60名が参加し開催されました。

横山氏には現在住まわれている山梨県北杜市から、山のパートナーでもある奥さん同道おいでいただき、限られた時間の中でクライミングを通して学んだこと感じたことを、山を登るように語っていただきました。

その概要をかいつまんで書き留めます。

横山氏は1979年6人兄弟の末っ子として相模原市で生を得た。小学校時代の趣味は相撲で、国技館で相撲をとったこともある。

8歳で山歩きを始めたが、そのきっかけは父親が読んでいた山岳雑誌「山と溪谷」だった。以来ひたすら山歩きに没頭していった。なぜのめりこんだかといえば、歩いて行った先に何があるのだろう、といった未知への期待感が何とも言えなかったからだ。

1997年、山に近いという理由で信州大学理学部に入学。即、山岳部に入り年間200日以上を山で過ごし、仲間との絆やチームワークの大切さなどを学んだ。

大学卒業後就職はするも、山への憧れは募るばかりで、主にアラスカを中心に、年に5ヵ月ほどは遠征していた。こうしたことができたのも多くの理解者やパートナーのおかげだった。

以降、奥さんやさらに多くのパートナーとの出会いや交流の中で、様々な山に挑むがすべてが成功したわけではない。撤退や断念したことも多かったが、成否すべてが貴重な経験となって蓄積された。



恩師鈴木先生から講師の紹介

そして、いよいよひとつの通過点として2010年5月、カナダの最高峰マウント・ローガン(5959m)南東壁に挑むことになる。

立ちはだかる未登の氷壁に、登行するイメージラインを描き、パートナーと気持ちは共有しつつも、心の葛藤またトラブルや酷寒と闘いながら氷壁を登っていく。悪戦苦闘の末稜線に達して山頂を目指すか断念するか、極限に近い疲労の中で心は揺れる。

天候の急変への恐れや未踏壁を制したことなどを理由に、30分もの間逡巡し下山の準備をしている最中、横山氏の漏れるような溜息が二人の気持ちに再びスイッチを入れることになり、結局二人は頂上に立つことになる。

過酷な自然環境下での行動や心の動きがどのように変化していくのか。パートナーとの絶対的な信頼関係を築きつつも、言葉とは裏腹にある深奥の機微など興味の尽きない話だった。さらに行動を起すときのささやかなきっかけもまた面白いと感じた。

横山氏はこれからも限りなく岩壁に挑戦し続けるだろう。今回話していただいた山への挑戦の話の終わりに、若い彼が遠慮がちに生き方を語ってくれたが、それは老若にかかわらず熱い思いと継続していく大切さを、多くの経験に裏打ちされての話であり、聴衆はそれぞれに感銘や示唆を得たと思う。無事な山行が続くことをお祈りしたい。

(事務局記)



Do what you love, …の意味を語る横山氏

講演会を聴講して

みずみずしく語られた山への思い

山への熱い思いが、普通の話し言葉でみずみずしく語られる。言葉がうまく見つからず、もどかしくても何とか話そうとする気持ちががすなおに伝わってくる。横山さんの講演を聴いてまず感じたことがこれでした。クライミング用語をほとんど使わず、「何故山に登るか」を基調として、起伏する心情が爽やかに吐露された講演だったと思います。

初登攀のシーンは圧巻でした。1人は不安要素が強いと中止。2人で決行したが壁のなかなは-30℃、テントがまともに張れず、1日1,000歩程度しかとれない状況で連日20時間以上の行動を、と知れば目が眩みます。山頂直下で登るか否か30分議論、下山と決めてふと漏れた溜息に、「やっぱり行こう」とパートナー。3時間後、深い感動に包まれてローガンの頂に、と畳みかけてくるクライマックスに胸を躍らせながらも、自分には絶対入れない世界を仰ぎ見る寂しさのようなものがよぎったことを覚えています。

講演会に参加したきっかけは「岳人」誌の特集記事。冒頭を飾る横山さんの文にひかれたことは勿論ですが、幾枚かの写真に見える表情が実に変化に富んでいて、失礼と思いながらも今の素顔はどうなんだろう？と。講演後の懇親会ではピオレドール賞に輝いた手に触らせてもらい、素敵な奥様と話すこともできました。来年はどんな山に登っていこうか、などと考えながらの帰り道は本当に楽しいものでした。

友の会会員 市之宮和彦



この冬の気象状況



北アルプス西穂高岳の山小屋、西穂山荘で支配人を務めております栗澤（あわざわ）と申します。気象予報士でもあることから山岳気象の研究に取り組んでおり、山岳科学総合研究所には大変お世話になっています。

西穂山荘は北アルプスの稜線にある山小屋の中で唯一通年営業を行っており、この年末年始も越年登山をされるお客様で賑わいました。年明けまでの気象状況で特徴的なのは、非常に積雪量が少ないことです。例年なら山荘付近では既に2m30cm程度の積雪がありますが、今年はまだ1m50cm（1月14日現在）で、ひと月くらい遅れている感じです。北日本は大雪に見舞われているところが多く、同じ長野県でも北部は雪が多いのに、ほんの少し南に位置するだけで、雪の積もり方が全く異なっているのが特徴的です。

これは冬になっても太平洋高気圧の勢力が強かったため、冬型の気圧配置による影響範囲が北に押しやられていたことが影響していると思われませんが、このままの状況が続くはずもなく、このしわ寄せがいつやって来るのか、冬も営業している山小屋の一員としてはとても気になっています。

山の気象ひとつをとってみても、私達には分からないことだらけです。大学という最高レベルの研究者が集う機関が、様々な疑問を科学的に解明していくことは、私達の未来に大きな影響をもたらします。また、山と共に生きる信州にあっては、山を知り自然を知ることは生活と密接に関わってもきます。

山岳科学総合研究所の存在意義は今後益々大きくなり、更なる社会への貢献が期待されていくことは間違いありません。微力ではありますが、少しでもそのお役に立てるよう尽力してまいりたいと思っています。

西穂山荘支配人 栗澤 徹



友の会会員の皆様はじめまして。学生会員の槇と申します。現在は鈴木所長の研究室に所属し、GPSを用いた積雪深の調査を卒業研究として行っています。



近年、「山ガール」ブームなどもあり、若者が山に興味を持つようになってきました。私は幼い頃から家族と山に登っていたことで、以前は山に興味がなかった友人から「山に登ってみたいが、どうしたらいいか」と相談されることや、最近山に登るようになったよ、と報告を受けることが度々あります。山の広々とした環境とその非日常感に惹かれているようです。

昨年8月の上高地子どもキャンプでは、久しぶりの屋外で寒さがちだった福島の子もたちが上高地の大自然に触れ、半日後にはのびのびと目を輝かせて遊ぶ姿が見られました。山岳環境への関心を広く高めるためにも、こうした山のすばらしさを1人でも多くへ発信し、山仲間を増やしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

信州大学理学部物質循環学科4年 槇 拓登

◆友の会臨時総会報告◆

2011年12月22日15時から友の会臨時総会が開催され、概ね次のような意見や要望が出されました。

- 夏行ったこどもキャンプの継続
- ステーションを利用して会員相互の触れ合いや交流を深め知識を高める事業
- 蝶や地質・植物などの勉強会や講習会の開催
- 会員の得意分野を活かし、会員が講師となって県内各地での勉強会の開催
- 大学の先生方から直接現地で研修をしていただきたい
- 若い会員を増やしたい
- 会員相互の交流のためにもできれば詳しい個人情報公開してもらいたい
- 登山において、麓から山全体を見ながら登るような催しはどうか
- 事務局の充実が重要だ

これらの意見は、今後の事業計画に反映させてまいります。なお、会の発展につながるご意見などありましたら、随時事務局までお願いいたします。

お・し・ら・せ

◎第1回友の会会員現地研修会◎

既報のとおり。改めて概要をお知らせします。

期日：2012年2月11・12日

場所：乗鞍高原（宿泊所・信大乘鞍寮）

会費：5,000円（学生会員3,000円）

申込期限：1月27日（金）

※まだ間に合います。ぜひご参加を！！



山鍋が待っている信州大学乗鞍寮

◎研究所第16回上高地談話会◎

16回目となる談話会が開催されます。ご参加を。

日時：2012年2月18日（土）14:00～16:00

会場：信州大学理学部C棟2階大会議室

内容は既報のとおり。会員の自然公園財団上高地支部 鍛冶所長の講話もあります。

◎24年度会費の納入をお願いします◎

会員の皆様は規約の定めるところにより、3月31日までに同封の振込依頼書により、次年度分会費を送金ください。

年会費 正会員：3,000円／人、家族会員：5,000円／家族、学生会員：500円

賛助会員：1口10,000円以上

郵便振替口座 口座番号：00560-0-70075

口座名称：山岳科学総合研究所友の会

（送金手数料はご負担ください。）

また、新規入会も募集しています。特に若い会員大歓迎です。皆様ぜひ心当たりの方がおいででしたら声をかけてみてください。申込用紙は事務局にありますので、ご一報ください。



穂高岳、霞沢岳を遠くに望む奈川の一集落も静かな新春を迎えました。

春になるとサクラやヤマモモ、ヤマナシやツツジなどが一斉に咲き、桃源郷のような風情を醸します。それはそこに人が住んで、文化と環境を守っているからこそ美しい景観が維持できるのです。中山間地域から農地の耕作放棄が進んでいます。やがて荒廃地となって遷移が始まり、いずれ森となって集落は覆い尽くされてしまうのでしょうか。

規模は違っても、アンコールワット遺跡群の中にある、ガジュマルに圧倒されるタ・プローム遺跡を思い起こします。

歴史や文明の移ろいのなかで、自然科学を担う信州大学山岳科学研究所の役割はますます重要となっていきます。

編集後記

東北・北海道は記録的な大雪に見舞われていますが、上高地・乗鞍方面は例年にない寡雪です。上高地で1月17日現在45cm（バスターミナル）しかありません。穏やかなこの日、冬でなくてはできない工事が進んでいました。また多くのスノーシューハイカーが自然美を堪能し、シャッターを切っていました。

会報2号を発行します。まだまだ十分なものではありません。会員の皆さんの行事への参加と、会運営への提言そして会報への投稿をお願いいたします。

(友の会会報編集委員会)

山岳科学総合研究所友の会会報 第2号

発行日：2012年1月20日

発行：山岳科学総合研究所友の会

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1

信州大学山岳科学総合研究所友の会事務局

TEL：0263-37-2432 FAX：0263-37-2438

E-mail：ims-support@shinshu-u.ac.jp